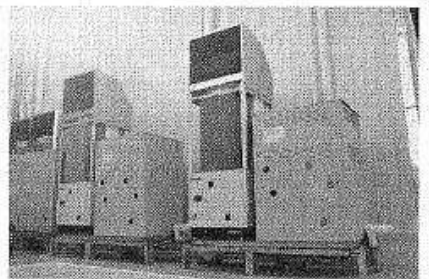


R469A超低温

二元システム

全国初導入

カノウ冷機（社長＝叶長＝菊池一裕氏、所在地 伸一氏、本社・神奈川県・岩手県盛岡市羽場10-100）。同市場内に新設した冷凍低温センター（8-1）が展開するプレハブ庫用の超低温二元冷凍システムにおいて、低温側にGWP（地球温暖化係数）が1357と低い、R23代替冷媒のR469Aを採用したユニットが全国で初採用された。採用したのは、岩手県唯一の中央卸売市場水産部である盛岡市中央卸売市場における卸売業者（大卸）の盛岡水産（社



①導入した超低温二元冷凍機と②の冷機と③センターシステムでは22馬力2台の計44馬力で済むため、消費電力を大幅に抑えられる。またスクリーン冷凍機のよいうな大掛かりなオーバーホールは不要であり、メンテナンスコ

建設に踏み切った背景には、市場冷蔵の超低温冷凍庫のスペースが手狭になったこと、市場冷蔵では二つの超低温冷凍庫を1台の冷凍機で温度管理しているため冷凍機のリスクヘッジが必要だったこと、超低温冷凍庫からの出し入れが多く市場冷蔵の負担になっていたこと

井高が6段で、主に冷凍マグロや冷凍カツオを保管する。ここに同システムを導入し、22馬力のユニット2台により、マイナス55度Cで保管する。二次側は東和産業グループのマキシス工業製の注ユニットクーラー。天井高が高いため、庫内に設置した床置きタイプを設置し、メンテナンスも抑制できる見込み。更に同システムは、低温側に加えて高温側もGWP1387のR448Aを採用し、指定製品制度における2025年の目標値1500をクリアする環境性も備えている。

現在、カノウ冷機には同システムの引き合いが増大しており、兵庫の大手スーパーマーケットチェーンの物流倉庫でもR469A、R448Aの同システムを導入した。

環境性に加えて導入・運用コスト低減が評価

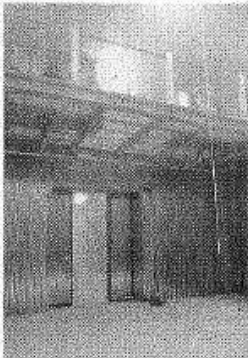
盛岡市中央卸売市場でマイナス55℃冷却

会社であるテクノサービと、そしてビックینگ時ス（社長＝中澤修身氏、本社・岩手県紫波郡）が設計・施工を手掛けた。これまで盛岡水産では同市場内の市場冷蔵（別会社）が管理する水産冷蔵庫において、超低温の冷凍品やチルド品、生鮮品等の保管・荷捌を委託してきた。同センターの設計、冷凍品の管理を移管することとした。将来的には受入量増大も視野に入れていく。

この超低温冷凍庫は、庫内面積が約30坪、天

井高が6段で、主に冷凍マグロや冷凍カツオを保管する。ここに同システムを導入し、22馬力のユニット2台により、マイナス55度Cで保管する。二次側は東和産業グループのマキシス工業製の注ユニットクーラー。天井高が高いため、庫内に設置した床置きタイプを設置し、メンテナンスも抑制できる見込み。更に同システムは、低温側に加えて高温側もGWP1387のR448Aを採用し、指定製品制度における2025年の目標値1500をクリアする環境性も備えている。

現在、カノウ冷機には同システムの引き合いが増大しており、兵庫の大手スーパーマーケットチェーンの物流倉庫でもR469A、R448Aの同システムを導入した。



マイナス55度Cの超低温庫の様子

この超低温冷凍庫は、庫内面積が約30坪、天